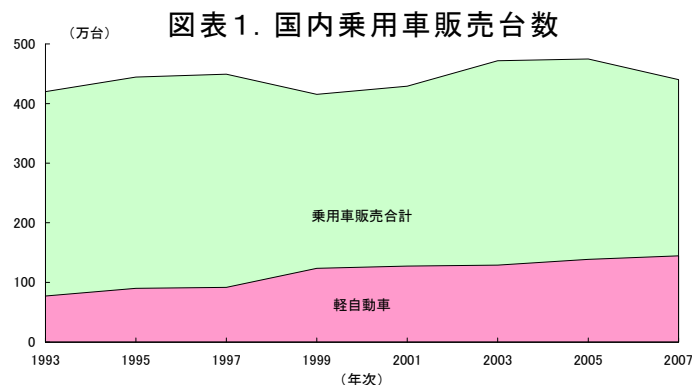


歴史的転換点を迎えた国内乗用車販売

【ポイント】

1. 日本車の海外販売は好調が続くが、国内販売は減少傾向が止まらない。
2. 一方、小型車の代表格である軽自動車は過去 10 年間で倍増している。
3. 小型自動車増加の鍵は「地方の足」と「働く女性」と「シニア層」であり、今後もこのトレンドは継続する模様である。

日本メーカーの自動車販売は海外では好調で、2007年販売実績は1995年比で約1.5倍の2,400万台、全世界販売台数の約3分の1に達しようとしている。ところが、足元の国内販売は1990年の778万台をピークに昨年は3割減の535万台まで縮小した。その中、2,000ccクラスのセダン型乗用車が大幅に減少する一方、小型車の代表格である軽自動車は1993年のほぼ2倍の145万台まで拡大した（図表1）。世界的な原油価格の高騰の影響もあり今後10年間の国内販売のトレンドは小型乗用車販売（軽自動車を含む1,600ccまでの乗用車）と予想されるが、その他の要因について三つの仮説をもとに考察したい。

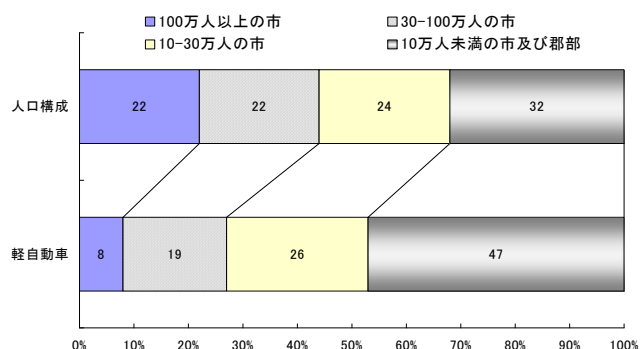


(資料) 社団法人日本自動車販売協会連合会販売統計
社団法人全国軽自動車協会連合会販売統計

1. 「地方の足」の地位を確立

軽自動車ユーザーは地方に居住する。人口構成では32%の10万人未満の市及び郡部でおよそ5割が保有される（図表2-1）。一方、人口100万人以上の大都市の保有は1割以下である。その理由として、都市部では公共交通機関が発達し最寄りの駅やバス停まで近く、また運行本数も多いが、都市規模

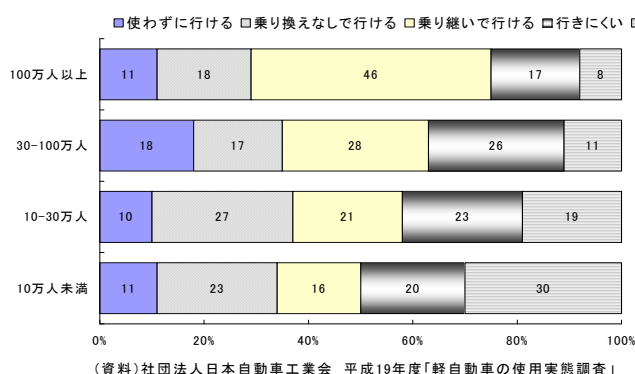
図表2-1. 都市規模(人口)別の軽自動車保有台数割合



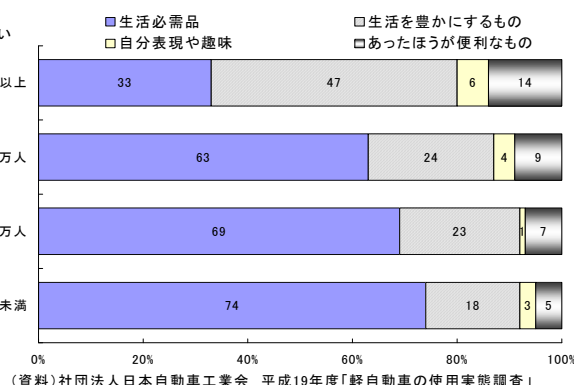
(資料) 社団法人日本自動車工業会 平成19年度「軽自動車の使用実態調査」

が小さくなるほど公共交通機関が不便になる現状を反映した結果とみられる。また、通勤・通学でクルマを利用する、10万人未満の市及び郡部における軽自動車ユーザーの5割は、クルマ以外では「行きにくい」、「行けない」ために車通勤を選択している（図表2-2）。このような生活必需品目的でクルマを利用する際には経済性に優れた小型車が購入対象として選ばれている。購入価格も2,000ccクラス乗用車の半分以下で、燃費、自動車諸税のランニングコストも安い。しかも、小回りがきき運転しやすい割には、室内の広さも充分である。これらの理由から「地方の足」として近年小型車が定着した模様である（図表2-3）。

図表2-2. 車利用者の公共交通機関での通勤・通学先へのアクセス



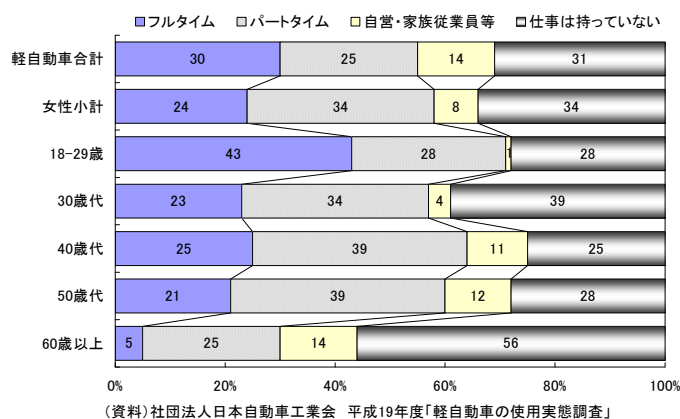
図表2-3. 車の役割



2. 「働く女性」に選ばれる小型車

小型車の代表格である軽乗用車では男女のユーザー比率は女性が高く65%を占める。また、女性ユーザーの66%は有職者である（図表3）。30歳代を除いて、軽乗用車ユーザーの就業率は、同じ世代の一般女性全体よりも、50歳代では7%ポイント、60歳以上では23%ポイントも高い。軽自動車を通勤手段にすることで公共交通機関が発達していない都市部以外でも仕事を得やすくなっており、小型乗用車の普及は女性の就業率向上を下支えしていると推測できる。また、女性ユーザーの69%はほとんど毎日使用しその率は男性より高い。通勤、買物、送迎等でクルマが生活の一部に浸透していることがわかる。このカテゴリーをカバーする小型車のニーズは今後も高まると考えられる。

図表3. 軽乗用車女性ユーザーの就業状況

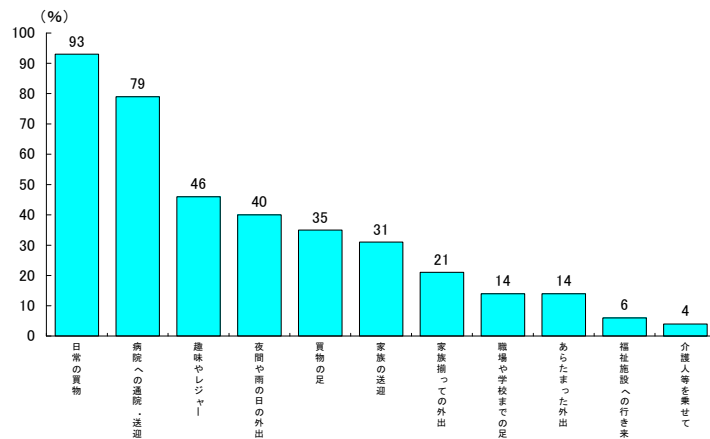


3. 「シニア層」の移動手段として選ばれる小型車

日本の経済を支えてきた団塊の世代はいつの時代でも乗用車の新しい流行を創ってきた。昭和40年代には日本のモータリゼーションの担い手となり、20歳代ではスポーツ車ブームを起こした。また、アウトドアとクルマを本格的につなげたのもこの世

代である。このように、この世代の特徴としてクルマを保有することで自分のライフスタイルを表現する指向が強いことが特筆できる。この団塊の世代は、2010年以降に全体がシニア(60歳以上)に入り、新しいクルマ社会を生み出す可能性を秘めている。シニア層は住宅ローンや子育てから開放され、経済的にも余裕が出始めると考えられる。加えて、シニア層にとってクルマでもたらされる「移動の自由」は重要である。シニア層自身は80歳過ぎまで運転を続けたいと希望しており、若い世代が73歳くらいでクルマの運転やめると予想するのに対し大幅に延長されている。また、クルマを運転するシニア層は日常の生活手段、レジャー目的など若い世代同様に引き続きクルマを利用すると考えられる(図表4-1)。

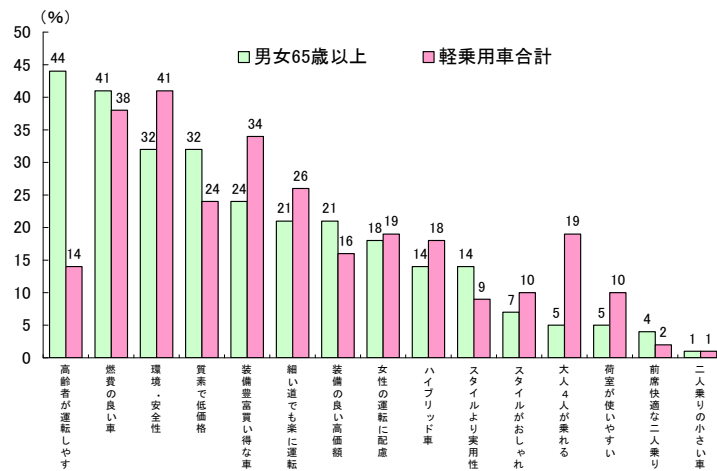
図表4-1. 65歳以上の軽自動車ユーザーの日常生活での用途



(資料)社団法人日本自動車工業会 平成19年度「軽自動車の使用実態調査」

さて、新しいシニア層である団塊の世代が選ぶクルマは、運転しやすい燃費が良い経済的な小型車と考えられる(図表4-2)。しかも、団塊の世代は、若い頃にはクルマ関連支出にも意欲的でライフスタイルにもこだわりを持っている。彼らをターゲットにした新しいスタイルのクルマの登場が待たれるところである。

図表4-2. 65歳以上の軽自動車ユーザーの小型車への要望



(資料)社団法人日本自動車工業会 「-2010年-シニアユーザーとクルマ」